

令和 7 年度 学校マネジメントシート (年度末)

学校名(津商業高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		「全力津商」の精神のもと、商業の見方や考え方を重視した学校教育活動を通して「知識・技術」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	・「知識・技術」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を身につけるために努力する生徒 ・周囲とコミュニケーションを図り、自己肯定感を高めることができる生徒 ・高い志を持ち、失敗をおそれずに果敢に挑戦する生徒 ・仲間と協働し、新たな課題の発見と解決に積極的に取り組む生徒 ・人権感覚にあふれ、規範意識と倫理観を大切にする人間性豊かな生徒
	ありたい教職員の姿	・法令を遵守するとともに、授業力等の向上に向けて、自己研鑽に励む教職員 ・目指す学校の姿、育みたい生徒の姿の実現に向けて、校内外の多様な人材と連携を図り、それぞれの専門性を生かして力を発揮することができる教職員集団

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> 学習活動や資格取得、部活動に励み、充実した高校生活を送ることを通して学ぶ喜びを実感するとともに、自らの希望進路を実現する。 <保護者> 子どもが安全・安心な学校生活を送るとともに、学力向上や人間力の育成及び希望進路の実現を期待している。 <地域> 地域の活性化に資する人材を育成するとともに、地域と学校が協働して、社会に貢献する意欲や態度をともに育成する。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 <家庭> 学校情報の提供 学校行事等への参加機会の増加 <中学校> 卒業生の様子、入試情報などの共有 <地域企業・事業所> 地域産業の担い手としての人材の育成	連携する相手への要望・期待 <家庭> 本校教育活動への理解と連携協力 <中学校> 基礎学力定着の促進と個々の生徒に対して効果的な指導を進めるための情報共有 <地域企業・事業所> 生徒の生きた学習の場(実学)の確保に向けての連携協力
(3)前年度の学校関係者評価など	・高校のインターンシップは進路と直結しているため、生徒自身が将来就く職業について具体的に考える体験となるよう取り組む。 ・アンケート調査で望ましくない方向に回答している生徒には、どうしてそのように回答したのか理由を聞くことで取組の改善につなげる。 ・生徒が互いの活動を応援する取組が行われており、仲間どうし支え合う力を育む。 ・若い世代は指示をされないと動き出せないことがあるので、主体的に考え行動ができるような取組を行う。 ・保護者への情報発信について、ホームページを頻繁に更新するなど、スピード感をもって取り組んでいくことが求められる。	

(4)現状と課題	教育活動	・資格取得や部活動への積極的な参加の意思を持った生徒が多く、就職と進学の両面の充実に向け、計画的・系統的なキャリア教育を推進する。 ・生徒の自主・自立を促すため、生徒が学校生活や規則・マナーについて主体的に考える機会を増やす。 ・文武両道の理念のもと、学習端末を有効に活用した授業実践や学習方法の研究を進め、生徒や保護者の期待に応える。
	学校運営等	・商業高校の特色ある教育活動として、地元企業や商工会議所等と連携を図り、教育活動の充実改善に取り組んでいるが、その魅力を地域や中学生にわかりやすく発信する。 ・働き方改革に関する取組について、業務のデジタル化を推進するとともに、前例踏襲を見直して業務負担の軽減を図る。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・つきたい力の育成に向け、学習端末を効果的に活用して教育活動の充実を図るとともに、生徒が主体的に考え、チャレンジする機会を積極的につくる。 ・商業の専門知識や技術の習得の成果として資格取得を重視するとともに、産業界や地域と連携し、ビジネスの視点を重視した探究活動など実社会との繋がりの中で主体性や協働性を育む取組を推進する。 ・部活動に力を入れ、生徒の自己肯定感や自己有用感を育み、卒業後すぐに社会人として活躍できる即戦力となる人材育成を推進し、地域社会の持続的な発展に貢献する商業高校づくりを進める。
学校運営等	・本校の教育理念や教育内容、教育実践内容等の商業教育の魅力を、中学校をはじめとして広く地域社会にPRし、商業高校の存在価値について広く理解を得る。 ・保護者や地域社会からの信頼と協力を得るため、教職員の授業研修やコンプライアンス研修等を通して信頼される学校づくりを進める。 ・働き方改革に向けて、組織全体で業務の効率化を進めることで、時間外労働時間を減らして働きやすい職場環境をつくる。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・「商業」や「情報」の学習に興味・関心と意欲があり、資格取得にも積極的に取り組める生徒 ・スポーツ活動や文化活動または生徒会活動等に意欲を持って取り組む姿勢を有する生徒
---------------------------------	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1)わかりやすい授業づくり 学習端末を積極的に活用するとともに、個別最適な学びと協働的で深い学びを推進し、生徒にとってわかりやすい授業を実践する。 【活動指標】 ・授業実践研修 2回	(1)一人一台端末を活用した授業を拡充し、主体的・協働的に学ぶ授業づくりに取り組んだ。 ・教職員AI研修会 2回 ・授業がわかりやすいと回	

	【成果指標】学校生活満足度調査(生徒) ・授業がわかりやすいと回答する生徒の割合 85%以上(R6:84%) ・学校が楽しくなったと回答する生徒の割合 80%以上(R6:78%) (2)つけたい力の育成 実社会との繋がりの中で主体性や協働性を育む取組等を通して、生徒につけたい力を育成する。 【活動指標】 ・地元企業・行政等と連携した学習の発信(10回以上) 【成果指標】つけたい力に関するアンケート(生徒) ・「知識・技術」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」が高まったと思う生徒の割合 85%以上 (R6:知識・技術94%/前に踏み出す力87%/考え抜く力88%/チームで働く力:94%)	答する生徒の割合 88% ・学校が楽しくなったと回答する生徒の割合 90% (2)地域と連携した商品開発等により、つけたい力の育成に取り組んだ。 ・地域連携の様子を各種メディアで発信(小学校出前授業、スポーツ教室、商品開発等) ・つけたい力が高まったと思う生徒の割合 93% (知識・技術 95%/前に踏み出す力 89%/考え抜く力 92%/チームで働く力 95%)	◎
学校全体で取り組むキャリア教育の充実	(1)進路指導の充実 望ましい進路選択に向け、生徒のキャリア発達を促す。 【活動指標】 ・進路ガイダンスの充実(1年3回、2年4回、3年5回) ・インターンシップの実施(2年生) 【成果指標】振り返り調査(生徒) ・自らの進路について考える事ができたと思う生徒の割合 85%以上(R6:90%) (2)生徒指導の充実 社会人として必要な規範意識やマナーについて、3年間を見通した効果的な指導を行う。 【活動指標】 ・自己肯定感を涵養する取組(各学年、生徒会) 【成果指標】自尊感情に関するアンケート(生徒) ・自分の判断や行動を信じることができると思う生徒の割合 90%以上(R6:83%)	(1)関係機関と連携した進路ガイダンス等の充実を図った。 ・インターンシップの実施(2年生 7~8月) ・自らの進路について考える事ができたと思う生徒の割合 94% (2)頭髪服装指導を定期的に実施、防寒着のルールを見直した。 ・保健指導講話でレジリエンスやリフレーミングスキルの学びの機会をつくった。 ・自分の判断や行動を信じることができると思う生徒の割合 90%	
安心・安全な学校づくり	(1)人権教育の充実 人権感覚あふれる学校づくりに取り組む。 【活動指標】 ・人権フィールドワーク(1年生) 【成果指標】 ・人権尊重の実践行動ができる意欲・態度を育むことができたと思う生徒の割合 90%以上(新規) (2)命を大切に教育の充実 いじめ防止や命を大切に教育を推進し、生徒の発達段階に応じたきめ細かな支援を行う。 【活動指標】 ・個人面談(3回) ・SC・SSW・発達障がい支援員との協議(6回以上) 【成果指標】 ・自分の事を必要としてくれている人がいると思う生徒の割合 90%以上(R6:85%) (3)危機管理意識の向上 熱中症対策、防災対策等、生徒自身が危険回避の行動が	(1)人権に関する授業や人権LHRを行った。 ・1年生は、9つのテーマに分かれ、人権フィールドワークを実施した。 ・人権尊重の実践行動ができる意欲・態度を育むことができた生徒の割合 95% (2)いじめ防止の啓発活動や教育相談を充実した。 ・個人面談(3回) ・SC・SSW・発達障がい支援員との協議(担任等) ・自分の事を必要としてくれている人がいると思う生徒の割合 86% (3)熱中症対策、感染予防	◎

	取れるように支援する。 【活動指標】 ・保健だよりの発信(11回) ・安否確認訓練・防災訓練(2回以上) 【成果指標】 学校生活満足度調査(生徒) ・安心して学校生活がおくれると思う生徒の割合 95%以上 (R6:94%)	対策等に努めた。 ・保健だよりの発信(11回) ・防災訓練(5月) ・安否確認訓練(4・12月) ・安心して学校生活がおくれると思う生徒の割合 94%	
改善課題			
生徒のニーズの多様化が急速に進んでおり、これまでの教育モデルでは対応しきれないほど複雑化し、教職員の個別対応の時間が増え、SC・発達障がい支援員等のサポートが不可欠になっている。			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：

最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1)教職員の資質向上 Teams の活用に係るOJT研修をはじめ、エピペン・AED、特別支援教育・人権教育研修を実施する。 【活動指標】 ・校内研修会の実施 (各1回以上) 【成果指標】 学校生活満足度調査(生徒) ・授業に満足している生徒の割合 80%以上(R6:80%) (2)信頼される教職員集団への取組 事例の共有や意見交換などを通して、教職員のコンプライアンス意識の向上に努める。 【活動指標】 ・コンプライアンス意識調査(2回) ・コンプライアンス研修(2回) 【成果指標】 ・コンプライアンスの向上に努める教職員の割合 100% (R6:100%)	(1)各分野の研修会で資質向上に取り組んだ。 ・エピペン・AED研修(4月) ・人権教育研修会(9月) ・特別支援研修会(9月) ・授業に満足している生徒の割合 88% (2)セルフチェックや集合研修により、コンプライアンス意識の向上に努めた。 ・コンプライアンスチェック 2回(7月・12月) ・コンプライアンス研修 3回(7月・12月・2月) ・コンプライアンスの向上に努める教職員の割合 100%	
情報提供による信頼の構築	(1)授業、学校行事等の公開 生徒の様子や商業高校の学習内容について、保護者や中学生、地域に公開し、理解を深めてもらう。 【活動指標】 ・公開授業等の実施(3回以上) 【成果指標】 ・学校説明会のアンケートで満足であると回答した中学生の割合 90%以上(新規) (2)教育活動の成果等を情報発信 商業に関する特色ある教育活動や部活動の成果等に関する情報を積極的に発信する。 【活動指標】 ・Web等での情報発信 100回以上(R6:73回)	(1)体育祭、文化祭、人権フィールドワーク報告会の公開を行った。中学生対象の学校説明会を実施した。 ・公開授業等の実施 3回(6月、8月、10月) ・学校説明会のアンケートで「よかった」と回答した中学生の割合 94% (2)部活動や販売実習などの特色ある教育活動について情報発信を行った。 ・すぐるを活用した情報	◎

	【成果指標】 保護者へのアンケート ・学校の様子を理解する保護者の割合 85%以上 (R6:80%)	発信(148回) ※2月末時点 ・学校の様子を理解する保護者の割合 84%	
組織運営・働きやすい職場環境づくり	(1)働き方改革の推進 前例踏襲を見直して業務の軽減を図り、時間外労働時間の削減に取り組む。 【活動指標】 ・設定した定時退校日に退校できた教職員の割合 100%以上 (R6:100%) ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% (R6:100%) ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 90%以上 (R6:90%) ・学校閉校日の設定 3日以上 (R6:3日) 【成果指標】 ・時間外在校時間が年360時間を超える教職員数 0人 (R6:13人) ・時間外在校時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 (R6:58人) ・1人当たりの月平均時間外在校等時間 20時間以下 (R6:26.2時間) ・1人当たりの年休取得日数 17日以上 (R6:16.9日) (2)学校運営の改善 諸課題の解決に向けて、教職員や関係者の声を反映させながら、学校運営の改善を図る。 【活動指標】 ・学校行事や部活動、会議や出張等の精選 【成果指標】 ・働きやすい職場環境だと感じる教職員の割合 100% (R6:71%)	(1)総労働時間削減に向けて取り組んだ。 ・設定した定時退校日に退校できた教職員の割合 100% ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 94% ・学校閉校日の設定 3日 ・時間外在校時間が年360時間を超える教職員数 11人 ・時間外在校時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 60人 ・1人当たりの月平均時間外在校等時間 26.9時間 ・1人当たりの年間休暇取得日数 15.8日 (2)年度末教職員アンケートを活用し、校務のDX化等の改善を図った。 ・働きやすい職場環境だと感じる教職員の割合 85%	◎
改善課題			
小・中学生に向けた生徒による学校説明や出前講座を充実しているが、商業高校におけるDXなどの特色ある専門分野の実践や、地域連携・キャリア教育の取り組み等が地域に伝わりにくい傾向がある。			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	AI・DX人材育成は今後ますます重要になるが、情報モラル教育を強化すべきであり、SNS・ネット犯罪防止の教育が必要不可欠である。避難所指定に伴う防災連携をはじめ、学校のPRのために積極的に地域へ情報発信をしていくことが重要である。
---------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	授業面での個別最適化の工夫を広げるとともに、校内の支援体制を見える化し、専門スタッフや関係機関との連携を最大化して対応に当たっていく。
学校運営についての改善策	学校の特色化・魅力化に取り組むことに加え、日々の教育活動や部活動における生徒の頑張り等を保護者や地域に向けて積極的に情報発信していくために、複数のメディアによる情報発信や生徒主体の広報活動に取り組んでいく。